



第55回 フランク王国とキリスト教②

1 カール大帝の時代

・ピピンの息子であるカールは武勇にすぐれ、イタリアでローマ教皇と対立していたランゴバルド王国をアルプス超えによって滅ぼし、さらに勢力を拡大させた。



カール大帝
身長 195 cmの長身で、水泳を得意とした。焼肉が好きだったが、酒はあまり飲まなかった。カールの戴冠を西ローマ帝国の復活といっているものかどうか…

- ◆ () (在位 768～814 年)
- ・北東の ()、東のアルタイ語系の () を撃退した。
- ・イベリア半島のイスラーム勢力とも戦って、スペイン辺境伯領を置いた。
→カールは、在地の豪族を () に任命して支配させ、 () を派遣して監督させた。
- ・宮廷にアルクインらの学者を招き、カロリング=ルネサンスが起こった。



- ・ () 年のクリスマス、ローマ教皇 () は、カールに西ローマ皇帝の冠を与えて、「西ローマ帝国」の復活を宣言した。※「
→これによりローマ文化・ゲルマン文化・キリスト教(カトリック)文化が融合した西ヨーロッパ中世世界が誕生した。



アルプスを超えるカール大帝

カール大帝は、46 年の長い治世で、56 回もの遠征を行った。なかでもアルプスを超えたランゴバルド王国攻めが有名である。



カールの戴冠

フランク王国とローマ教会の結びつきが、最高潮に達した瞬間である。しかしカールの死後、皇帝位はたらい回しになってしまう。



アーヘン

ドイツにあるアーヘンは、温泉が出たこともあり、カール大帝のお気に入りの町であった。カロリング=ルネサンスの中心地である。

2 フランク王国の分裂

・カール大帝の死後、フランク王国では後継者による内紛が起こった。
→843年の () と 870年の ()
により、フランク王国は3つに分裂した。

- ・ 2つの条約により、西フランク王国、イタリア、東フランク王国が成立した。



ユーグ=カペー
全てのフランス王は、彼の子孫にあたる。なおカペーは本名ではなくあだ名である。

☆西フランク王国 (843～987 年)

- ・ 987 年、() が断絶した。



☆フランス王国 () (987～1328 年)

- ◆ () (在位 987～996 年)
- ・ 987 年、() のユーグ=カペーが王に選ばれ、カペー朝が成立した。
- ・ 王権は弱く本拠地のパリ周辺のみ支配できた。



オットー1世
レヒフェルトの戦いは、2日間にわたる大激戦であった。

☆東フランク王国 (843～962 年)

- ・ 911 年、カロリング家が断絶し、919 年に () のハインリヒ 1 世が王に選出された。
- ・ 955 年、ハインリヒ 1 世の息子 () は、レヒフェルトの戦いで、ウラル語系の () を撃退した。



☆ () (962～1806 年)

- ◆ () (在位 962～973 年)
- ・ 962 年、ローマ教皇から皇帝の冠を授かり、神聖ローマ帝国が成立した。
- ・ たびたびイタリア遠征を行ったため、ドイツ地域やイタリアの分裂を招いた。
- ※これを () といい、歴代の神聖ローマ皇帝が行った。
- ・ 帝国教会政策により、聖職者の任命権を持つことで教会を支配しようとした。

☆イタリア (中部フランク王国) (843～875 年)

- ・ 875 年、カロリング家が断絶すると、神聖ローマ帝国のイタリア政策、イスラーム勢力やノルマン人の侵入で、() 状態となった。